

2023 アートマイル国際協働学習プロジェクト 報告書

国・地域[チュニジア]

団体名 [Rejiche Youth House] 担当名[大島 都] (12~18歳, 中1~高3 18名)

日本学校名 [横浜市立本宿中学校] 担当教諭名[野口雅史・矢嶋 優樹]

■実施教科・時間数について教えてください。

アートマイルに関連した 実施教科・時間数	教 科	単 元 名	時間数
	課外活動	アートマイル活動	週 1~3日 2~3時間

■作品に込めた想いについて教えてください。

題 (テーマ)	海と陸の繋がり
メッセージ (相手と想いを合わせて 世界に発信したいメッセージ)	「海と陸は密接に繋がっており、海の豊かさを守るためには私たちは陸も守らなければならない」



■今回の取り組みの成果と課題はどういった点でしょうか？

成 果	課 題
チュニジアは環境教育が遅れており、当初、ユースたちはSDGsの概念すら知らず、平気でゴミをポイ捨てる子もいた。しかし、SDGs学習に取り組んだ結果、環境への意識が高まり、自分ごととして環境問題をとらえるようになった。また、環境問題は個人で解決するものではなく、皆で取り組まなければならないことを理解した。	<p>施設には英語が堪能な指導員がおらず、今回の活動は協力隊員主導のもと、英語が理解できるチュニジア人青年ボランティアの協力を得ながら取り組んだ。結果、青少年の家の職員はあまり積極的に関わることはなかった。隊員帰国後にSDGs学習や環境教育を継続していけるかどうかを懸念している。</p> <p>チュニジアの学校では9月中旬頃、新学年が始まるので、青少年の家ルジシュの利用者が大きく入れ替わった(学年があがり勉強に専念するため、施設に来なくなる利用者も多い)。日本の学校とは学期や学年の区切りが違うので、10か月の長いプロジェクトを固定メンバーで継続して取り組む難しさを感じた。</p>

■アートマイルに取り組む前と比べて相手の国・地域や世界に対して意識はどう変わりましたか？

児童生徒の意識の変化	教師の意識の変化
日本のアニメ人気が高く、当初からチュニジア人のユースたちは日本の文化に詳しく、日本人に対し、「トヨタ」「勤勉」「町がクリーン」「テクノロジーが発達している」「親切」などポジティブなイメージがあった。日本の学生と交流を重ねることで、より日本に親しみを感じるようになった。	青少年の家の庭には、これまで交流してきたフランスやドイツ、アルジェリアの国旗のオブジェが飾られていたが、新たに日本の国旗が加わった。

■主な活動の流れを教えてください。

場面	時期	活動内容	児童生徒の反応	実施教科等
調べ学習 テーマ学習	2023年 8月 9月	<ul style="list-style-type: none"> ・SDGs講座 (SDGsとは？自分たちの課題、今出来ることについてディスカッション) ・ウミガメ保護などに取り組む NPO Notre Grand Bleuによる海洋環境保護の出前講座 ・Notre Grand Bleu主催のリサイクルワークショップに参加 ・レポート作成 <p>① SDGs12 チュニジアでこのままゴミを放置したら将来どうなる？</p> <p>② チュニジアの海は将来どうなる？</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・チュニジアの公立学校では SDGs (ODD) の概念について、参加メンバーは誰も知らなかった。 ・学習を通し、地中海の海洋ゴミの70%は陸から流れ込んだものであり、中でもマイクロプラスチックは、海の生態系や人体に悪影響をもたらすという事実には驚いていた (ウミガメの奇形など) ・チュニジアのユースたちは議論好きなので積極的に意見交換をした。 ・日本のパートナー校から届いたレポートの解決策 (質の高い自然素材を長く利用する等) を紹介したところ、「企業にも利益が必要なので、自然素材の質が高いものは価格があがり、チュニジアでは普及は難しい。日本では普及のためにはどのような工夫をしているのか？」など、鋭い質問も提示された。 ・「今できること」の意見として「学校で日本の掃除当番のような仕組みを取り入れることも環境教育に繋がる」などのユニークな意見が出た。 	課外活動
共有 相手と意見交換	2023年 10月	<ul style="list-style-type: none"> ・日本の学生が作成した「リサイクル」に関するレポートを紹介。 ・互いのレポートで情報共有を行い、疑問点を交換し合った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ルジシュでは、地元の環境団体がリサイクルの取り組みを始めたばかり (昨年、古着、パン、紙、プラゴミを分別回収するリサイクルボックスを設置。有志のボランティアがリサイクルゴミの回収をおこなっている)。 プラスチック製品の製造、販売、回収、リサイクルまでの全過程において、事業者、自治体、消費者が一体となってリサイクルに取り組む横浜市の現状を知り、「環境問題の解決は個々ではなく、皆で取り組むべきだ」という気づきがあった。 ・東京2020オリンピック・パラリンピックの金・銀・銅メダルが、日本全国から集められた小型家電の金属をリサイクルしたものであるということに、強い関心を寄せた。 	課外活動

融合 メッセージ作成	2023年 11月	<ul style="list-style-type: none"> ・絵画を通して何を伝えるのか？デザインコンセプトの会議を複数回に渡って開催。 ・日本側からは傘が地球を守るイメージではどうかという提案があった。 ・チュニジアでは雨がほとんど降らず、傘は馴染がないため、別案を提案した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・チュニジアのユースから「海と陸は密接につながっており、私たちはその両方を守らなければいけない」というメッセージを発信したい、と日本に提案。あわせてデザイン案も日本に提出し、そのまま日本に採用された。正直なところ、もう少し、アイデアのキャッチボールがしたかった。 	課外活動
創造 壁画制作	2024年 1月	<ul style="list-style-type: none"> ・11月末から12月初旬日本で絵画作成 ・チュニジアでは1月いっぱい絵画制作に取り組む 	<ul style="list-style-type: none"> ・日本から絵画や絵の具とともに届いた、日本の駄菓子やホッカイロ、しめ縄や鏡餅の贈り物にユースたちは大喜びした。 ・日本の生徒たちが描いた、シンプルできれいな色遣いに感心した。 ・下書きまでは順調だったが、色のバランスに苦労した。何度も塗り直しを重ね、ようやく絵画を完成させた。 	課外活動
評価 振り返り 自己評価	2024年 2月	<ul style="list-style-type: none"> ・2月、首都チュニスで開催されたクリーンUPイベント(日本大使館・JICAチュニジア・チュニス市・UNハビタット共催)に絵画を展示。地元ルジシュのビーチでもアートマイルメンバー有志で清掃活動を実施した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・文化の違う日本とチュニジアで大きな絵画を完成させたことに達成感を味わった。 ・環境問題への意識が高まり、ゴミのポイ捨てをしなくなった。落ちていたゴミを拾うようになった。 ・チームで絵を描く楽しさを知った。 ・環境問題の解決は個人ではなく、皆で取り組む必要があるという気づきがあった。 	課外活動

■アートマイルでついた力について教えてください。

評価 (5:とてもついた 4:ついた 3:どちらともいえない 2:あまりつかなかった 1:つかなかった)

学習目標・つけたい力	評価	教師がそう感じた場面と理由
異文化を理解する力	5	日本文化に対する好奇心や探求心が強く、ユースたちは書道、浴衣着付け、日本語学習などに積極的に取り組んだ。浴衣の着付けはYouTubeを見ながら何度も家で練習し、自分で着付けができ、人にも浴衣を着せられるようになった子もいた。また、音楽が得意なアートマイルメンバーは日本語の挨拶だけでなく、日本の人気アニメ音楽の挿入歌の演奏や日本語による歌唱が出来るようになった。
主体的に考え行動する力	4	小学生の頃からチュニジアの学校には「市民権」の授業があり、ユースたちは自分の意見を表明し、議論することに慣れている印象を受けた。絵画のデザイン案を考えたときにも、ユースたちから自発的に様々なアイデアが提案された。また、皆で、アイデアを出し合い、議論することでデザイン案を肉付けしていった。
批判的に思考する力 (客観的・論理的視点)	4	日本のレポートに記載された解決策に対して「高品質なものは価格が高く普及しにくい」等、鋭い視点で質問を投げかけたことがあった。批判的、客観的な視点で物事をとらえることが出来ていた。

<p>多様な他者と対話・協働する力 (海外の相手と対話・協働)</p>	<p>4</p>	<p>オンライン交流会で日本の学生たちに挨拶したいと、懸命に練習し、流ちょうな日本語で自己紹介をした子がいた。また、チュニジアの文化を紹介するため、アラブの楽器や歌唱を披露するなど、積極的に異文化コミュニケーションを図った。10 か月で3回のオンライン交流会を実施したが、チュニジアのユースたちにとっては、遠い日本の学生たちと直接、言葉を交わす、エキサイティングで貴重な経験になった。日本の学校は下校時間に厳密で、最後のオンライン交流会を実施出来なかったことが大変残念でした。</p>
<p>想いを表現する力 (メッセージ作成・壁画制作)</p>	<p>5</p>	<p>「海と陸は密接に繋がっており、海の豊かさを守るためには私たちは陸も守らなければならない」というメッセージを絵画に込めた。絵画の中央に描かれているのは「生命の樹」。木の下でピクニックをする人たちが使用するのは伝統的な籠や陶器など、自然素材の持続可能なものばかり。「NO！プラスチック」という想いを伝えた。また、長い歴史の中で多様な文化が交差してきたチュニジアには、様々な肌の色、瞳の色を持つ人々がいることを絵画の中で表現した。2023年ルジシュ市に設置された4色のリサイクルボックスや、チュニジアの環境保全のシンボルとして親しまれる砂漠の野生動物フェネックを描くなど、絵画の中にたくさんのメッセージを込めることが出来た。</p>